

周りの5人が未来を変える

この、「周りの5人～」っていうのを聞いたことありますか？

これは一般的に、ミラーニューロンっていう言葉で言われています。何かというと、自分の思考っていうのは、色んな情報が入ってきて、それが咀嚼されて今の自分の意見になったりしています。

ということは、例えば愚痴ばっか言ってる人たちとお酒を飲みに行って、自分も同じように愚痴を言ったら、もう同じ人間じゃないですか。でもこれが、プロジェクトをやって凄く上手くいったとか、こんな施策をやったとか、みたいな仲間に入っていたら、自分もそれに影響されちゃうということです。プロジェクトを成功させられるということです。

ミラーニューロンを逆手に取る

「生物学における DNA の発見に匹敵する」と称されるミラーニューロンは、サルで発見された、他者の行動を見たときにも自分が行動しているかのような反応を示す脳神経細胞。この細胞はヒトにおいて、他者が感じることへの共感能力や自己意識形成といった、じつに重要な側面を制御しているという。(Wikipedia より)

それで、よく言われるのが、この周りの5人の年収の平均が自分の年収を決める、ってことです。類は友を呼ぶってやつです。私は思うに、低いレベル同士で仲間をつくると、もう抜け出せないのではないかと危惧します。

だからできれば、上のレベルの人と交わるべきかと。それで、ただこれで上手くいかない人は、出世してから、あるいは稼げるようになってからそういう仲間に入ろうとするのです。でも今のところは、自分はまだまだだ、そんなレベルじゃない、って言って入らないのです。でもこれは逆なのです。まだまだな時から仲間入りする必要があるのです。

例えばこれ、ニワトリが先かタマゴが先かってよく言うじゃないですか。会社でいえば、部長に抜擢されたって人がいたとします。その人はまだ部長の器が無くてです。でも、先に部長という肩書がついちゃうのです。

で、もう一人は、まだまだだからって言って、ずーっと、課長のままの人がいますよね？で、そうするとどうなるかっていうと、先に肩書を付けちゃった人っていうのは、どんどんどんどん部長の風格が出てくるものなのです。責任感も出てくるし、発言も立派になってきます。

でもこれが、まだまだ君は部長の器じゃないよね、って言って、課長のまんまの人っていうのは、やっぱり課長のまんまなんですよ。なので、こうやって人っていうのは、その肩書とか役職とか、自分に貼られたレッテルに影響されます。

特に周りの意見ではなく、「自分は〇〇なんだ！」っていう思い込みです。会話だったり、考え方だったり、態度だったり。例えば文章を書かせてもそうなります。

事業をどう任せるか？

会社での地位が上に行くと、全く今までに知らなかったような情報や話が、どんどんどんどん入ってきます。で、これがベースになって業務に向かう時と、全くこの情報を知らないです仕事だったら、どっちが上手くいって話です。全く未来が変わってきますよね。

そう、この周りの5人っていうのは、いつの間にか、すごく自分に影響を与えるのです。これはもう細胞レベルで響いてきてしまうので、もう自分が好きとか嫌いとか、得意とか不得意とか、そういうレベルじゃない。情報や知識や判断しなければならないケースが、自分の能力とはまったく関係なしに、どんどん先に入ってくっていうのがポイントです。

自分がこういう風な仕事をしたい、こういう風な自分になりたい。それをもう得てる人たちの仲間に、まだまだ末席ポジションだったとしても、そこに無理やり入ってくるのです。そうやって、未来を先取りしてくのです。要は鏡、ミラーニューロンです。

ふつう、鏡の前に立たないと自分って映らないじゃないですか。他人が立ってれば、それが自分に反射してきますよね？ こういう風な未来を得ることが出来るのか、という風に影響を受けるのです。なのでこの、周りの人っていうのは意識しなくちゃいけないのです。

羽柴秀吉に倣え

秀吉の生涯を見るにつけ織田信長との出会いは、たしかに彼の運命を大きく決定づけた。でも感じるのは、柴田勝家や丹羽長秀、前田利家など優秀な家臣のほか、新参の明智光秀、細川藤孝（幽斎）など実力のある人材があふれた中に、身を置けたというのが大きいのではないのでしょうか。

秀吉の才覚は、まったくミラーニューロンを逆手に取ったのではないかと思います。それでなければ、単に賢い家臣ということで終わっていた運命だったとも。

それは、自分の生い立ちや、現在の身分や境遇に恥じることなく、上役や諸先輩に絡んでいったという点です。おそらく、古参の武将たちからは疎まれ、蔑まれたでしょう。「お前の居場所はここではない。いますぐ部屋から出てけ」とも言われたでしょう。

そこで、ハイ分かりましたと出ていったのなら、後に天下人にはなれなかった。そこに居直り、そして居座り、はじめて耳にすることを質問し、さらに掘り下げ、Why と How と What が明らかにするまで、彼を疎んじた者たちから離れなかったことでしょう。

今できることをやる

今、自分の周りを見渡しても、そんなすごい人たちばかり5人もいないよって話になるでしょう。秀吉の理屈は分かって、なかなか自分より先に行ってる人との出会いもどうしたらいいって感じでしょう？ 結局似たようなメンバーで居酒屋に行くばかりになってしまうでしょう？

ただこれってというのは、「会う」というのが勿論、一番パワフルなのですが、例えばそういう人ってなかなか、会えないじゃないですか、忙しいので。ということで、別にその人が書いてる本でもいい。ブログでもいい。YouTube 動画でもいいです。

YouTube 動画ってというのは最近よく見るのですが、すごいと思います。面と向かって立っているのと同じじゃないですか、意味合い的には。なので、すごく影響を受けると思います。

積極的に濃い影響を受けるのは、ほんとうに良いことです。ネットからでも構いません。本を読んでも構いません。今までにないことに触れられるなら、成長のチャンスです。新鮮な感じで受け取れるなら、その相手の人を「先生」と呼べばいい。

その先生たちが過去、苦しんで躓いてきたものを、そういうところは一切合切、ショートカットしてくれて、良いところだけ教えてくれるのです。だから、受け取るべきです。人に交わるべきです。

以上